



平成28年9月27日

各位

会社名 株式会社 リボミック
代表者名 代表取締役社長 中村義一
(コード番号：4591 東証マザーズ)
問合せ先 取締役執行役員管理本部長 宮崎正是
TEL. 03-3440-3303

**抗 FGF2 アプタマー医薬品の開発に関して、慶應義塾大学医学部、
大阪大学医学部、ならびに順天堂大学医学部と共同研究契約を締結・実施**

この度、当社が創製した線維芽細胞増殖因子 2 (FGF2) に対する核酸 (RNA) アプタマー (以下「本アプタマー」、自社創薬品目 RBM007) について、本アプタマーを用いた呼吸器疾患 (特に肺がん領域) 治療薬の開発に関して、慶應義塾大学医学部 (担当：呼吸器内科・別役智子教授) との間で共同研究契約を締結することとなり、取締役会において本日決議いたしましたので、お知らせします。

別役教授は FGF2 の高発現が呼吸器疾患、特に肺がんの発症に関与することを世界に先駆けて発見しており、細胞試験と動物試験によって、本アプタマーの肺がん治療薬としての可能性を検証する予定です。

また、大阪大学医学部附属病院小児科の大藪恵一教授とは、抗 FGF2 アプタマーを用いた軟骨無形成症治療薬に関する共同研究を開始いたしました。大藪教授は、四肢短縮による低身長を主な症状とする軟骨無形成症 (Achondroplasia) を専門とする臨床医科学者 (physician scientist) で、本共同研究において、軟骨無形成症患者由来の iPS 細胞 (人工多能性幹細胞) 等を用いて、抗 FGF2 アプタマーの薬効試験を実施し、軟骨無形成症への適応の検証を行う予定です。

さらに、順天堂大学医学部眼科の猪俣武範博士とは、抗 FGF2 アプタマーを用いた眼疾患治療薬の開発に関する共同研究を開始いたしました。猪俣博士は角膜疾患を専門とする臨床医科学者で、本共同研究において、角膜移植モデル動物等を用いた抗 FGF2 アプタマーの薬理試験を実施し、角膜疾患への適応の検証を行う予定です。

FGF2 は 40 数年前に発見された増殖因子ですが、今日まで有効な阻害剤が開発されなかったために、その機能や創薬標的としての理解が不十分でした。当社が開発した抗 FGF2 アプタマーは FGF2 の機能を完全に遮断できる優れた阻害剤で、これを用いた研究によって、初めて FGF2 の生体での多面的な機能を明らかにすることに成功しました (Molecular Therapy の 2016 年 8 月の電子版にて掲載：論文題目「Dual Therapeutic Action of a Neutralizing Anti-FGF2 Aptamer in Bone Disease and Bone Cancer Pain」)。すなわち FGF2 の機能を阻

害する本アプタマーは、FGF2 の発現や活性の亢進にもとづく各種の疾患に対して有効な治療薬となる可能性があり、本共同研究によって、その検証と実現をはかりたいと考えています。

本アプタマーを用いた軟骨無形成症治療薬の開発については、現在、日本医療研究開発機構（AMED）の希少疾病用医薬品指定前実用化支援事業として研究開発を進めています。当社は抗 FGF2 アプタマーに関して 2 件の物質特許を出願しており、その内の 1 件については、日本および米国にて特許が成立しております（日本特許番号 特許第 5899550 号）。

なお、本共同研究による、平成 29 年 3 月期の通期業績への影響はありません。

株式会社リボミックについて

株式会社リボミックは、次世代新薬として注目されている核酸医薬の一種「アプタマー医薬」の開発を目的とする、創薬プラットフォーム系バイオベンチャーです。当社の創薬基盤技術である「RiboART システム」は、様々なアプタマー医薬の開発に応用することが可能です。株式会社リボミックは疼痛・眼疾患・線維症を始めとして、広い領域の Unmet Medical Needs（未だに満足すべき治療法のない疾患領域の医療ニーズ）に対する新薬の提供を目指してまいります。

以上